



さんむ21
おのぞき
小野崎 正喜
議員

小・中学生の学力について

問 平成19年度より行われている全国学力・学習状況調査の、市内小中学校の状況はどうか。

答 市長 対象は、全市の学校の小学生、6年生と中学校3年生で、それぞれの教科で知識を問うA問題、知識の活用を問うB問題の2種類の調査とあわせ、家庭生活の状況について把握する質問紙による調査を行っています。

答 教育部長 本市における平成27年度の結果は、市全体の平均で、小学校では、理科で正答率が0.3ポイント以上、上回った以外は、国語のB、算数のAとBで、全国を5ポイント以

上、下回っております。

また、中学校においては、数学のAとBで、全国を5ポイント以上、下回っております。

小学生、中学生ともに、活用を問うB問題では、全国の平均正答率とは、大きな開きが見られているところではあります。

問 全国学力・学習状況調査の結果で、文科省や県教育委員会から、何らかの指導等はあったのか。

答 教育部長 文科省や県教育委員会から、データ及び結果分析に使用できる資料が送られてきています。市教育委員会では、学校とともに、学習指導の改善・充実を図

れるよう、データを活用しているところです。

また、文科科学省や県教育委員会では、調査結果を踏まえた学習指導の改善、充実に向けた説明会を開催しています。

問 東金市では「地域をあげ、児童の学力の向上」ということで、希望する児童を集めて、夏期講習会を開いているということだが、本市では、東金市がそのような事業を行っていることを把握しているのか。

答 教育部長 東金市では、昨年度から福岡小学校の児童を対象に実施しています。夏休みを活用し、午前中に2時間程度を設定し、7日間実施しています。近くの公民館を会場に、講師は主に市内在住の退職した校長先生が行っているそうです。

問 本市の放課後子ども教室の内容は、どのようなものか。

答 教育部長 日向小、緑海小、山武

西小の3校で実施しており、英語、そろばん、書道等の内容を多岐にわたって行っています。また、公民館において講座等を開催しています。

さらに、本年度から、放課後子ども教室とは異なりますが、英語教育推進事業の英語力アップ講座を、中学校2、3年生を対象に、全中学校で年間2回実施しています。この講座を活用しながら、英語検定取得を目指し、検定料の全額補助も行っていきます。

問 地域人材活用教育支援プラットフォームという内容の事業なのか。

答 教育長 市の子どものために、今後育みたい力として、基礎学力はもちろんのことですが、課題解決力やコミュニケーション能力など、これらから必要とされる生きる力を育むために、地域人材の派遣などの教育支援を学校教育と協力しなが

ら行っていくものです。

問 実施予定はどうか。また、GAAの主体はどこになるのか。

答 教育長 GAAの主体は、教育版の人材バンクである教育支援センターを、来年度に立ち上げられるように、準備を進めています。また、現在、主体は教育委員会ということになっていますが、将来的にはGAA自体が自立した組織となる方向で、検討をさせていただきます。

問 GAAの取り組みは、全国学力・学習状況調査の結果等も踏まえて行っているのか。

答 教育長 全国学力・学習状況調査の結果も、基礎学力は、生きる力を育むものになるものですので、もちろん、関係してくるものと考えています。この事業を行うことにより、学習環境をよりよく整え、将来必要となる力を育んでいきたいと考えています。



放課後子ども教室の様子 (料理教室)